

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-169	15-026 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Epidemiology of DSM-5 Alcohol Use Disorder: Results From the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions III.</p> <p>DSM-5に基づくアルコール乱用の疫学: National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions III の結果より</p>		
執筆者		
Grant BF, Goldstein RB, Saha TD, Chou SP, Jung J, Zhang H, Pickering RP, Ruan WJ, Smith SM, Huang B, Hasin DS.		
掲載誌		
JAMA Psychiatry. 2015 Aug;72(8):757-66. doi: 10.1001/jamapsychiatry.2015.0584.		
キーワード		PMID
DSM-5 アルコール乱用 疫学		26039070
要 旨		
<p>目的： 米国における DSM-5 で定義されるアルコール乱用（以下 AUD とする）の有病率、関連因子、精神疾患の合併、身体機能障害への影響および治療状況について検討した。</p> <p>方法： 対象は、2012～2013 年にかけて NESARCIII（National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions III）に参加した 18 歳以上の成人 36,309 名。2012 年 4 月～2013 年 6 月までデータ収集し、2014 年 10 月に分析した。評価項目は、12 か月間および生涯にわたる AUD の有病率である。</p> <p>結果： 12 か月間における AUD 有病率は 13.9%、生涯における AUD 有病率 29.1%であった。有病率は、男性、白人、ネイティブアメリカン、若年者、離婚者、未婚者において高かった。重症 AUD の有病率は、低所得者において上昇していた。身体機能障害は、AUD が重症になるほど増加する傾向にあった。障害にわたる AUD のうち、治療を受けているものの割合はわずか 19.8%であった。AUD は、薬物乱用、うつ、双極性障害、反社会的および境界型人格障害と強く関連していた。AUD とパニック障害、恐怖症、不安障害との関連はあまり強くなかった。</p> <p>結論： 米国において、DSM-5 で定義される AUD の頻度は高く、様々な合併症や身体機能障害をきたしているが、しばしば無治療のまま放置されている。AUD およびその治療に関する一般教育および政治的対応が必要と考えられる。</p>		